

生駒市の現状

1 基本データ

◇人口 115,673 人 (R8.4.1 現在)

※H25 の 121,331 人をピークに人口は微減傾向

◇県外就業率

55.8%(H22 年/2010 年)→51.5% (R2 年/2020 年)

◇高齢化率

25.42% (H27 年/2015 年) →29.96% (R7 年/2025 年)

◇昼夜間人口比率

(昼間人口が夜間人口に対してどれくらいを示す指標)

77.1% (H22 年/2010 年)→82.3% (R2 年/2020 年)

◇産業別就業率

第一次産業 0.9%、第二次産業 19.1%、第三次産業 79.9% (R2 年/2020 年)

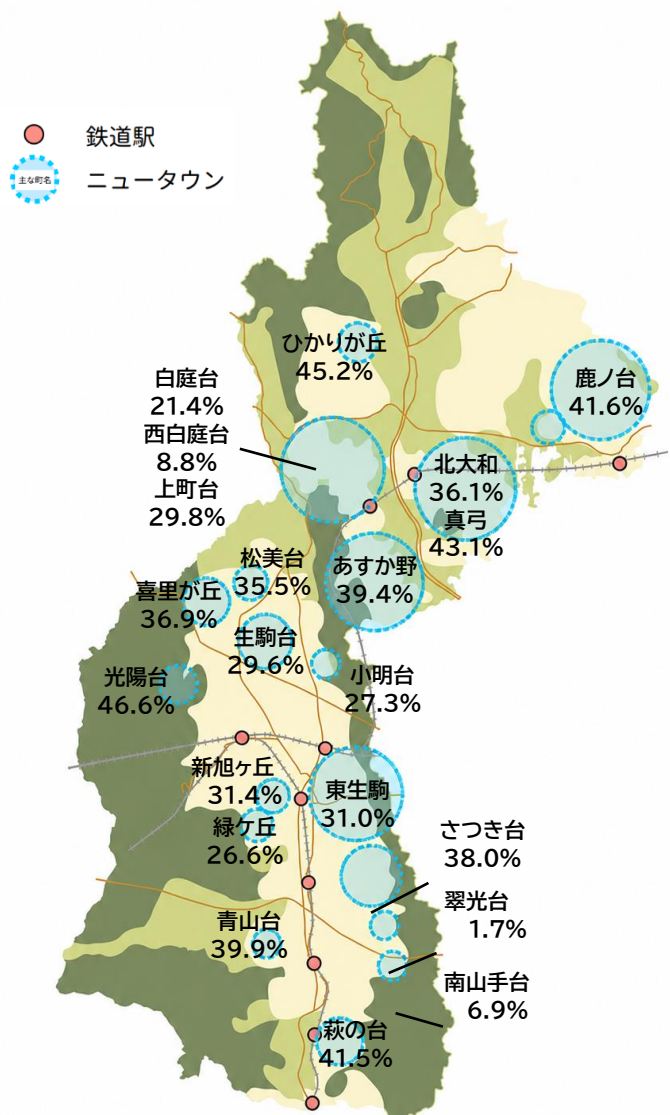


近鉄生駒駅から電車で大阪難波まで 20 分、
本町まで 26 分、近鉄奈良まで 15 分、京都まで 48 分

ニュータウンで進む高齢化(R8.4 月現在)

昭和 40～50 年代に市内各所で大規模な宅地開発が行われ、同年代の家族が一斉に移り住んだ。しかし、それから約 50 年がたち、当時転入した夫婦は定年を迎え、戸建て住宅地のため世代交代が進まず、高齢化が進んでいる。

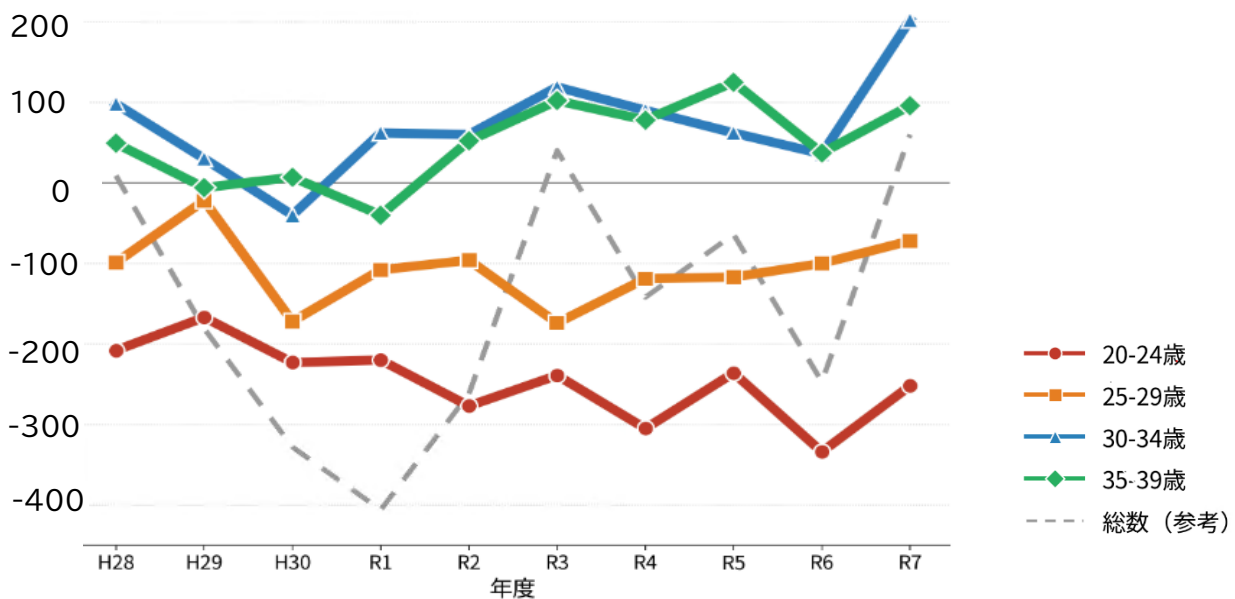
本市では市全体の高齢化のピークを、2045 年の 34.1%と予測している。
なお、R8.4 月の空き家率は 2.6%、持ち家率は 80.7% (令和 2 年国勢調査) である。



・主なニュータウンの入居開始年次

- 生駒台…昭和 36 年
- 東生駒…昭和 45 年
- 真弓 1～4 丁目…昭和 49 年
- あすか野…昭和 50 年
- 鹿ノ台…昭和 52 年
- 萩の台…昭和 56 年
- 北大和…昭和 63 年
- 白庭台…昭和 63 年
- 西白庭台…平成 14 年

2 年代別社会増減の推移（H28～R7）



◇30～39 歳が転入し、20～29 歳が転出する構造が 10 年間一貫して継続する。住宅都市として子育て世帯から選ばれている一方で、若者が進学・就職等を機に市外へ出ていく。その後も生駒との関係がどのように維持されているかについては把握できていない。

◇転出入データ全体では、東京都特別区へは 10 年間で 1,082 人の転出超過。大阪市からは 10 年間で 746 人の転入超過（令和元年のみ転出超過）、東大阪市からは 10 年間で 656 人の転入超過。奈良市へは 10 年間で 1,053 人の転出超過となっている。※H27～R6 の 10 年間の数値

◇なお、自然増減は平成 27 年から減少傾向になっている。

3 生駒市イメージ調査※の結果（R5～R7）

※生駒市周辺自治体在住の 25～44 歳・配偶者または子どもがいる人への WEB 調査 各年 1,500～2,092 人

(1) 生駒市へのイメージ

	R7	R6	R5
とてもよい	8.9%	8.6%	8.5%
良い	53.7%	55.6%	61.6%
悪い	2.0%	2.3%	3.3%
とても悪い	0.8%	0.4%	0.5%
イメージがわからない	34.6%	33.1%	26.0%

「とても良い・良い」が例年約 6～7 割を占め、ネガティブな印象はほとんどない。一方で、「イメージがわからない」が約 2～3 割と一定数存在する。また、令和 5 年度調査によると生駒と聞いて思い浮かぶイメージは「生駒山、自然、生駒山上遊園地、大阪に近い」などに集中する。

(2) 本市プロモーションサイト「good cycle ikoma」(<https://goodcycleikoma.jp/>)に触れると魅力の見え方が変わる

本市プロモーションサイト「good cycle ikoma」に触れた人の自由回答では、「自然豊か」「住みやすそう」といった従来からの住宅都市としての印象に加え、「人のつながり」「マルシェ」「カフェ」「子育てしやすさ」「おしゃれな暮らし」など、日常の暮らしに根ざした魅力への言及が見られる。

このことから、同サイトは、生駒の内側にある暮らしの魅力を一定程度可視化し、市外の人に対して「生駒での暮らしを具体的にイメージする」きっかけとなっていると考えられる。

一方で、自由回答には「良さそうだが特別感はない」「実際に行ってみないと分からない」「生駒ならではの分かりにくい」といった声もあり、好印象の形成にはつながっているものの、来訪・関与・移住につながる明確な動機づけには課題が残る。

「good cycle ikoma」は平成 31 年、第 6 次総合計画の策定と同時期に開設した本市のプロモーションサイト。第6次総合計画で掲げた「ベッドタウンから脱却し、多様な働き方や暮らし方が叶うまちを目指す」という新しい方向性を、理念として説明するのではなく、すでに市内で始まっている人や場の実践を通じて可視化することを目的としている。「大阪に近い緑豊かなまち」という従来のイメージだけでは、生駒の魅力を十分に伝えることができないという課題意識のもと、子育て・教育などの行政情報ではなく、自ら暮らしをつくる人、地域に関わる人、小さな営みを起こす人を紹介することで、「少し先の生駒」の姿を具体的に伝えている。



(3) 「好感」と「関与」の間に距離がある

「good cycle ikoma」を閲覧した際の生駒市への気持ち

	R7	R6	R5
生駒市に行ってみたいと思った	26.2%	25.5%	24.9%
生駒市を誰かにおすすめしたいと思った	8.8%	9.9%	(選択肢なし)
生駒市についてもっと知りたいと思った	20.5%	22.8%	21.0%
生駒市に住むことを検討したいと思った	4.3%	5.8%	3.1%
今後もこのサイトを継続して閲覧したいと思った	5.3%	5.9%	7.8%
そのほか特に何も感じなかった	46.5%	45.1%	52.3%

「good cycle ikoma」閲覧後の反応として、「生駒市に行ってみたいと思った」が約 25%、「生駒市についてもっと知りたいと思った」が約 20%と、サイトが生駒への関心や好意的な印象を生み出していることがうかがえる。一方で、「生駒市に住むことを検討したいと思った」「今後もこのサイトを継続して閲覧したいと思った」はいずれも 1 桁台にとどまる。

このことから、「good cycle ikoma」は生駒の内側にある魅力を伝え、関心を喚起する役割を果たしているものの、来訪や継続的な関与といった具体的な行動につなげるには至っていないと考えられる。今後は、関心を持った人が実際に人や場と出会い、関わることでできる体験機会や接点のあり方を検討する必要がある。

4 生駒市地域幸福度（Well-Being）指標に係る調査結果（R7）

※生駒市在住の18歳以上の男女、郵送による無作為抽出での配布、調査数1200件、回収数661件
(調査結果 https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40710/ikoma_wellbeing_report_r7.pdf)

地域幸福度調査の「自分らしい生き方」（調査結果16頁）では、「自分と関わりのある人や地域の人を大切にしたい」83.5%、「自分の存在を大切にしたい」79.8%、「精神的に健康な状態である」69.6%など、個人の暮らしや身近な関係に関する項目は高い傾向にある。

一方で、「友人・知人がきっかけとなり関わり始めた活動の場・機会がある」24.8%、「地域の課題に対して自分が何とかしなければならぬと感じる」17.3%、「暮らしている地域において、私がやりたいことを実現したことがある」13.4%、「暮らしている地域で役割を果たしたり貢献できたりする、活動的な一員だ」10.6%、「地域の課題解決や政策形成に関わっていると感じる」5.0%と、地域に対する効力感や参画実感は大きく低下する。

個人としての暮らしの充実感や身近な人への関心は一定程度高い一方で、その意欲や力が地域への参加・実践には十分つながっていない可能性がある。

※ただし本調査の回答者は60歳代以上が53.9%を占めることに注意が必要

5 生駒に芽吹いている動きの一例

生駒では、外部との関係づくりを目的として始まったわけではないものの、人や活動、場に惹かれて市外から人が訪れたり、関わったりしている事例が生まれている。これらは現時点では個別の実践として点在しており、まち全体への広がりや相互の接続は十分ではない。

(1) 市民等の実践から生まれている動き

◇まほうの다가しやチロル堂 (<https://www.tyroldo.com/>)

子どもが楽しめる駄菓子屋であり、大人の寄付が子どもの食事や体験を支える仕組みをもつ。グッドデザイン賞大賞受賞等で全国的に注目され、多くのメディアに掲載されている。2021年オープン。月1度、市内事業者が発起人となり、創業者・事業者のネットワーキングのための懇親会も開催されており、理念に共感した人が外から関わる起点にもなっている。

◇Musina -ムジナ- (<https://www.instagram.com/musina.nara/>)

高山町のデザイン事務所で、年に数度開催される音楽と飲食販売のカルチャーイベント。奈良のクリエイターをはじめ、多様な人が気軽に集まり、やがて新たな暮らしや商いが生まれることを願い、これまで3回開催される。主催者の一人である藤井崇司さんは2013年に京都市内から転居し、2015年に事務所を開業 (<https://goodcycleikoma.jp/people/4847/>)。

◇鳥居の向こう COFFEE (<https://ikomataisha.or.jp/toriinomukou>)

往馬大社（壱分町）の境内で山中陽平さんが定期的に行っているコーヒーを媒介にした場。約10年前に生駒に転居し、市内でマーケティング等を行う会社を経営しながら、2024年から取り組む。きっかけは往馬大社の神職である谷野さんからの声かけ。日常の中で人が集まり、会話が生まれる場所として開かれている (<https://goodcycleikoma.jp/people/12574/>)。

◇フリースクール和草（にこぐさ）(<https://www.instagram.com/freeschool.nikogusa/>)

生駒市で10年間、地域・子ども食堂「たわわ食堂」を開いてきた溝口雅代さんが2018年から開始する。不登校の子どもたちのための居場所にとどまらず、食、自然、農とのつながりを組み合わせながら、子ども一人ひとりの自ら育つ力を大切にする学びの場。こうした多様な学びを求めて、市外から移り住む家族もいる (<https://nikogusa510.com/tawawa/>)。

◇Kininalu（キニナル）(<https://www.instagram.com/kininalu.ikoma/>)

曜日ごとに店主が入れ替わる、ユニークなスタイルのカフェ。
「やってみたいことにチャレンジする」をコンセプトに、間借り
営業で花屋やコーヒー、焼き菓子、日替わり弁当など多彩なお店
が出店している。木曜日と金曜日は自宅で1組だけのレストラ
ンも開く藤井宏美さんの「ヒロミメシ」の日である。
(<https://www.instagram.com/hiromimeshi86/>)

◇自宅の庭をひらく人の実践

生駒市北部の獅子が丘では、毎年5月から6月にかけて住民が自宅の庭を公開するオープンガーデンが開かれている（2026年が18回目の開催、<https://www.instagram.com/shishigaoka.sdgs/>）。

また、生駒山のふもとにある自宅の庭で、週末に自然物を使ったワークショップやジビエ料理のふるまいなどを行っている人もいる。実践者は大阪市内の企業で働く会社員であるが、休日にこの場所を訪れた大阪の企業関係者が、その後、定期的に役員の意見交換の場として庭を利用するようになるなど、個人の暮らしの場が、生駒と継続的に関わる接点となっている。

(2) 行政の取組

生駒市では、「自分らしく輝けるステージ・生駒」という将来都市像の実現に向けて、市民活動や起業、就農、文化、教育など多様な分野で暮らしや活動を支える取組を進めてきた。これらは市外の人との関係づくりを目的としたものではないが、いずれも市内外の人が生駒に関わる入口となり、新たな活動が生まれる土壌になり得る。

◇創業・開業支援「ローカルビジネスハブ」(<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000035499.html>)

学びや実践を通じて、生駒で新しい挑戦に取り組む人を支援する実践型経営スクール。創業や第二創業、既存事業の革新に取り組む人のほか、現在の仕事を続けながら新しいキャリアに踏み出したい人も対象とし、市外在住者も参加できる。

◇市民PRチーム「いこまち宣伝部」(<https://www.city.ikoma.lg.jp/vod/0000003774.html>)

市民自身がまちの魅力を取材・発信する活動。まちへの愛着や関心を育み、地域活動などとの具体的な関わりへとつなげてきた。市民目線で生駒の魅力ある人・コト・モノが市外に伝わる土壌を育んでいる。今年度からは市外からの参加も可能。

◇複合型コミュニティづくり「まちのえき」(<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000039216.html>)

地域の人が歩いて集える自治会の集会所や公園などの地域拠点を活用し、買い物・居場所・交流といった日常の機能を自治会単位で支え合う仕組み。現在市内に 20 自治会 16 拠点あり、補助金や移動販売等導入支援策等も組み合わせて、住民主体の地縁的な関わりの場を育てている。

◇いこまファーマーズスクール (<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000034712.html>)

仕事をしながら農業を始めたい人や、将来的に農を生業にしたい人などを対象とした連続講座。体験農園での実技や座学、生産農家の見学などを通じて、未経験者でも農に関わる入口を持つことができる。市外からの応募も可能で、実際に大阪から移住して生駒で新規就農した人もいる。

(<https://goodcycleikoma.jp/people/13795/>)

◇文化・学びを通じた交流

公募提案型事業「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団・小中学校吹奏楽部など市民協働による文化芸術の場が育つ。

また毎月開催の「ビブリオバトル in いこま」(<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000031467.html>)、年 1 回の「ビブリオバトル全国大会」を開催しており、本と学びを介した接点となっている。

◇多様な学びを支える教育の取組

来年度は不登校児童生徒を対象とした「学びの多様化学校」の開校、小規模校の特性を生かしたイエナプラン教育の推進（生駒南第二小学校等）、令和 11 年度には子ども主体の多様な学びの実現を目指す生駒南義務教育学校の開校も控える。これらは、子どもの育ちや教育のあり方に関心を持つ保護者や教育関係者が、生駒に関心を持つきっかけになり得る。

◇そのほか／奈良先端科学技術大学院大学 (<https://www.naist.jp/>)

高山町に立地し、海外を含む学生や研究者が滞在・活動する大学院大学。高度な専門性と国際性を備えた人材の拠点となっており、住宅都市としては例外的な資源である。

「ナイスポ」(https://www.naist.jp/collaboration/regional/naist_expo/naispo2025.html) や「アクセラレーションプログラム」(<https://ikomacity-naist-accelerator-2024.jp/>) 等の接点はあるものの地域への広がり現時点では限定的である。